

科目区分	専門教育科目	授業科目名	カリキュラム論Ⅰ			科目コード	24Y216	担当者	本村 弥寿子			担当形態	単独
対象学科・コース	幼児教育学科	配当年次	1年次	開講学期	後期	単位数	1	必修・選択の別	選択	免許・資格要件	幼稚園教諭必修、保育士必修		
授業形態	講義	履修条件									教育職員免許法施行規則に定める科目区分等	科目区分	教育の基礎的理解に関する科目
実務の経験を有する教員担当科目		該当	実務の経験内容及び科目との関連	幼稚園と小学校の勤務経験がある。この勤務経験を基に保育計画の種類や立案方法を教授し、保育指導案作成の授業を行う。							科目に含めることが必要な事項	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラムマネジメントを含む。）	

授業の主題	保育計画の種類や作成方法、評価の考え方を理解し、保育の過程について学ぶ。	課題等への対応 (フィードバックの方法等)	小テストの返却時に解答の解説を行う。
授業の方法	参考書やプリントを使用し、講義形式で行う。	アクティブ・ラーニングの実施方法	

回数	授業計画	事前・事後学修	
第1回	オリエンテーション、カリキュラムについて	「保育内容総論」レジュメに目を通し、保育の基本や評価についての学びを振り返る。	
第2回	子ども理解に基づく保育の循環	授業後、3法令解説の、授業で触れた内容を読み返し、理解を深めておく。	
第3回	小テスト、幼稚園の教育課程編成の基本原理と方法	前回までの授業を復習しておく。授業後、3法令解説の、授業で触れた内容を読み返し、理解を深めておく。	
第4回	小テストの解説、保育所・こども園の全体的な計画作成の基本原理と方法	授業後、3法令解説の、授業で触れた内容を読み返し、理解を深めておく。	
第5回	小テスト、幼稚園の指導計画の作成	前回までの授業を復習しておく。授業後、3法令解説の、授業で触れた内容を読み返し、理解を深めておく。	
第6回	小テストの解説、保育所・認定こども園の指導計画の作成	授業後、3法令解説の、授業で触れた内容を読み返し、理解を深めておく。	
第7回	小テスト、保育指導案の作成方法①	第1回から第6回の授業内容を復習しておく。	
第8回	小テストの解説、保育指導案作成方法②（指導案の項目と内容）	第7回の授業内容を復習しておく。	
		事前・事後 学修時間 （分／授業1回）	180分／授業1回

教科書 [書名／著者名／出版社]	毎回授業時にレジュメを配布する。	受講生へのメッセージ	子どもの主体性を尊重し、子どもの心身の発達に適したかわりを考えて指導計画を作成しましょう。
参考書 [書名／著者名／出版社]	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領／文部科学省、厚生労働省、内閣府／チャイルド本社		

評価基準																		
	学修成果の大分類	学修成果の中分類 【10の力】	配点比率（％） 学修成果の（％）	評価方法の配点比率（％）						学修成果の小分類			尺度					
				定期試験	臨時試験	提出物	発表内容	受講態度	実習評価	学修成果の到達目標	修得する能力	評価方法／評価指標	レベル5 （S：100～90％）	レベル4 （A：89～80％）	レベル3 （B：79～70％）	レベル2 （C：69～60％）	レベル1 （F：59％以下）	
観点	尽心	態度・志向	① 学習意欲	10					10	積極的に授業や小テストに取り組むことができる。	向学心、真面目さ	受講態度	無欠席で、すべての小テストに取り組むことができる。	欠席が1回あったが、自ら内容を確認し代替の課題に取り組んだ。	欠席が2回以内あったが、代替の課題に取り組んだ	欠席が1～2回あり、課題に取り組まなかった。	欠席が3回以上あった。	
		② 規律性																
	創造	知識・技能	③ 知識	90		90				保育計画と評価の基礎知識を身に付け保育の過程を理解することができる。	専門的知識	小テスト	保育計画の作成及び評価の方法について十分理解し、他者に分かりやすく端的に説明できる。	保育計画の作成及び評価の方法について概ね理解し、田谷に分かりやすく説明できる。	保育計画の作成及び評価の方法について理解し、他者に説明できる。	保育計画の作成及び評価の方法について理解しているが、説明はできない。	保育計画の作成及び評価の方法について理解が不十分で、他者に説明できない。	
			④ 技能															
		思考・判断	⑤ 情報活用能力															
			⑥ 課題解決力															
		表現	⑦ 言語活用能力															
			⑧ コミュニケーション力															
	実践	行動・応用	⑨ 主体性															
			⑩ 協働性															
合計			100		90			10										